

越前市道路無雪化事業整備計画

平成30年12月

越前市建設部都市整備課

目次

1. 計画の目的	
2. 計画の対象	1
2.1 路線	1
2.2 期間	1
3. 消雪施設整備の現状	1
3.1 これまでの整備計画経緯	1
3.2 整備率（平成 29 年度末現在）	2
4. 消雪施設整備の現時点での検証	2
4.1 これまでの計画に基づく消雪施設整備の結果による検証	2
4.2 今計画に反映すべき項目についての検証	2
5. 消雪施設の整備方針	3
5.1 新規整備路線	3
5.2 既設水源活用路線	3
5.3 消雪施設更新計画	4
6. 整備路線の選定	5
6.1 消雪施設の整備計画路線	5

1. 計画の目的

本市の道路無雪化にあたって、旧武生市では平成元年度以降策定された整備計画に基づき、これまで市街地内の道路や郊外部の通学路を中心に消雪施設の整備が進められてきた。

一方で、緊急輸送道路の消雪施設整備や、国・県道に繋がる幹線市道の整備が遅れる結果となったことから、平成20年度に市は整備計画を策定し、豪雪時の防災対策や渋滞緩和を目的に幹線道路を中心に整備を進めてきた。

このような中、あらためて、平成30年2月の大雪の状況や平成35年春の新幹線開業などの社会情勢を考慮し、消雪ネットワークを形成するための路線の選定を目的に本計画を改定する。

前期計画においては、平成30年2月の大雪により東西アクセス道路の交通網が麻痺し、通勤・通学障害や生活物資の不足など市民生活に大きな影響が出たことを受け、東西アクセス道路を重点的に選定した。後期計画においては、今後の国・県道における消雪施設の整備状況を踏まえ、前期計画路線やこれまでの整備路線等と形成する消雪ネットワークを補完する路線についての整備を図る。

また、消雪施設整備されている箇所において、施設の老朽化等により散水量が確保されず機能が十分発揮されていない箇所があり、既存消雪施設の機能強化を図る必要がある。

合わせて、今後は、維持管理経費や老朽化による更新費用も増大していくことから、補修費用の平準化を図り、計画的かつ継続的に実施する。

2. 計画の対象

2.1 路線

国・県道などを含めた道路消雪施設の整備状況や今後の整備路線を検討する中で、本市が管理する市道を対象とする。

2.2 期間

平成31年度～平成40年度（前期5年：平成31年度～平成35年度）

（後期5年：平成36年度～平成40年度）

3. 消雪施設整備の現状

3.1 これまでの整備計画の経緯

- ・平成 2年 3月 武生市無雪モデルタウン整備計画（市街地北側）
- ・平成 5年 3月 武生市道路無雪化事業整備計画（市街地南側）
- ・平成11年 3月 武生市道路無雪化事業整備計画（市街地、郊外部）
- ・平成20年 5月 越前市道路無雪化事業整備計画（～平成28年度）
- ・平成27年11月 越前市道路無雪化事業整備計画

期間変更（～平成31年度）

3.2 整備率（平成29年度末現在）

単位：m

	無雪化事業			その他事業※2	実整備延長 ②+③
	計画延長 ①	整備済み ②	整備率 ②/①	整備済み ③	
市街地※1	31,719	29,879	94 %	1,233	31,112
郊外※1	33,597	16,752	50 %	13,501	30,253
小計	65,316	46,631	71 %	14,734	61,365

※1：市街地は東、西、南地区とし、郊外は市街地以外の地区とする。

※2：その他事業とは、旧県道からの移管など

4. 消雪施設整備の現時点での検証

本計画の策定にあたり、これまでの計画に基づく消雪施設整備の結果や、今計画に反映すべき項目について、現時点における検証を行った。

4.1 これまでの計画に基づく消雪施設整備の結果による検証

- ・ 市街地における施工済延長は、概ね整備計画の水準に達している。
- ・ 郊外部においては、小中学校を中心にした同心円内にある通学路を一律に整備対象としたことで、整備路線が放射線状となり、整備効率の面や消雪ネットワークを形成する上で課題が残っている。
- ・ 消雪施設（ポンプ、井戸、制御盤、管路（散水管、送水管）、ノズル）の老朽化による維持管理費が年々増加しており、補修・更新が進んでいない。

4.2 今計画に反映すべき項目についての検証

- ・ 平成30年2月の大雪では、市中心市街地と東部地域を結ぶ幹線道路において消雪施設が整備されていない箇所でも長時間にわたり交通渋滞が発生した。
- ・ 北陸自動車道や国道8号など主要幹線道路、JRや地域鉄道などの交通網が麻痺し、通勤・通学障害や生活物資の不足など市民生活に大きな影響が出たことを受け、主要な道路の整備を図る必要がある。
- ・ 主要な幹線道路である国・県道と、これらにアクセスする幹線市道の消雪施設の整備を連携することにより、ネットワークの強化を図る必要がある。
- ・ 平成35年春の新幹線開業などの社会情勢の変化を考慮する必要がある。
- ・ 消雪施設の老朽化等により散水量が確保されず機能が十分発揮されていない箇所があり、消雪施設の機能強化を図る必要がある。

- ・ 消雪施設（ポンプ、井戸、制御盤、管路（散水管、送水管）、ノズル）の多くは、設置後30年以上経過し、老朽化による施設の機能低下などが著しく、大きな問題となっていることから施設の維持・更新を計画的に進めていく必要がある。

5. 消雪施設の整備方針

5.1 新規整備路線

前項4.の検証結果を踏まえ、消雪施設整備計画の策定にあたっては、厳しい財政状況のもと、限られた予算と期間の中で効率的・効果的な整備を行うために、優先すべき路線を選定することが必要である。特に幹線道路の消雪ネットワークの形成という視点で対応することが重要と考えられる。

また、除雪業者数や除雪車オペレーターの減少、住民の高齢化なども踏まえ、対応することが重要と考えられる。



【前期】

- ・ 前期計画路線の選定にあたっては、東西の交通ネットワークを強化することが喫緊の課題であることを踏まえ、交通量や国・県道へのアクセス、公共公益施設へのアクセスなどを考慮しながら整備をしていくこととする。

【後期】

- ・ 後期計画路線の選定にあたっては、今後の国・県道の消雪施設の整備状況を踏まえ、今までの整備路線及び前期計画路線等と形成する消雪ネットワークを補完する路線や前計画からの継続路線について整備をしていくこととする。ただし、新幹線開通後における交通の変化などの社会情勢や、前提条件の変化などを考慮し、前期計画路線の整備が概ね終了する時点において、改めて整備路線の検討をすることとする。

5.2 既設水源活用路線

- ・ 既設井戸の揚水量に余裕があり緊急性・必要性が高く整備が可能な路線について、予算の範囲内で整備することとする。

5.3 消雪施設更新計画

消雪施設（ポンプ、井戸、制御盤、管路（散水管、送水管）、ノズル）の多くは、老朽化による施設の機能低下などが著しく、大きな問題となっていることから計画的な更新を図る必要がある。

厳しい財政状況のもと、限られた予算と期間の中で計画的な維持修繕を行うために、補修を計画的に実施し、優先すべき路線を選定することが必要である。



- ・機能低下が著しい施設を優先して更新を進める。
- ・交通量が多い路線・家屋が連担している路線に対しては、整備の優先度を高める。

6. 消雪施設の整備路線の選定

消雪施設の整備計画路線

計画期間	対象路線	箇所番号	備考
前期	市道第 4803、5801 号線 (都) 戸谷片屋線	①	新規
	市道第 5803 号線	②	新規
	市道第 4806、5802 号線	③	新規
	市道第 2805 号線	④	新規
	市道第 3806 外号線 (都) 河濯線	⑤	継続 (整備中)
	市道第 3904 号線 (都) 甲楽城線	⑥	継続 (整備中)
後期	市道第 2803 号線 (都) 馬場線	A	継続
	市道第 5808 号線	B	継続
	新幹線開通後における交通の変化などの社会情勢や、前提条件の変化などを考慮し、前期計画路線の整備が概ね終了する時点において、改めて整備路線の検討をすることとする。		

※ 水源確保が困難な場合や消雪水が十分確保できない場合には、路線や施工時期を見直すものとする。

(参考資料) 検討路線と無雪化の必要性

【前期】

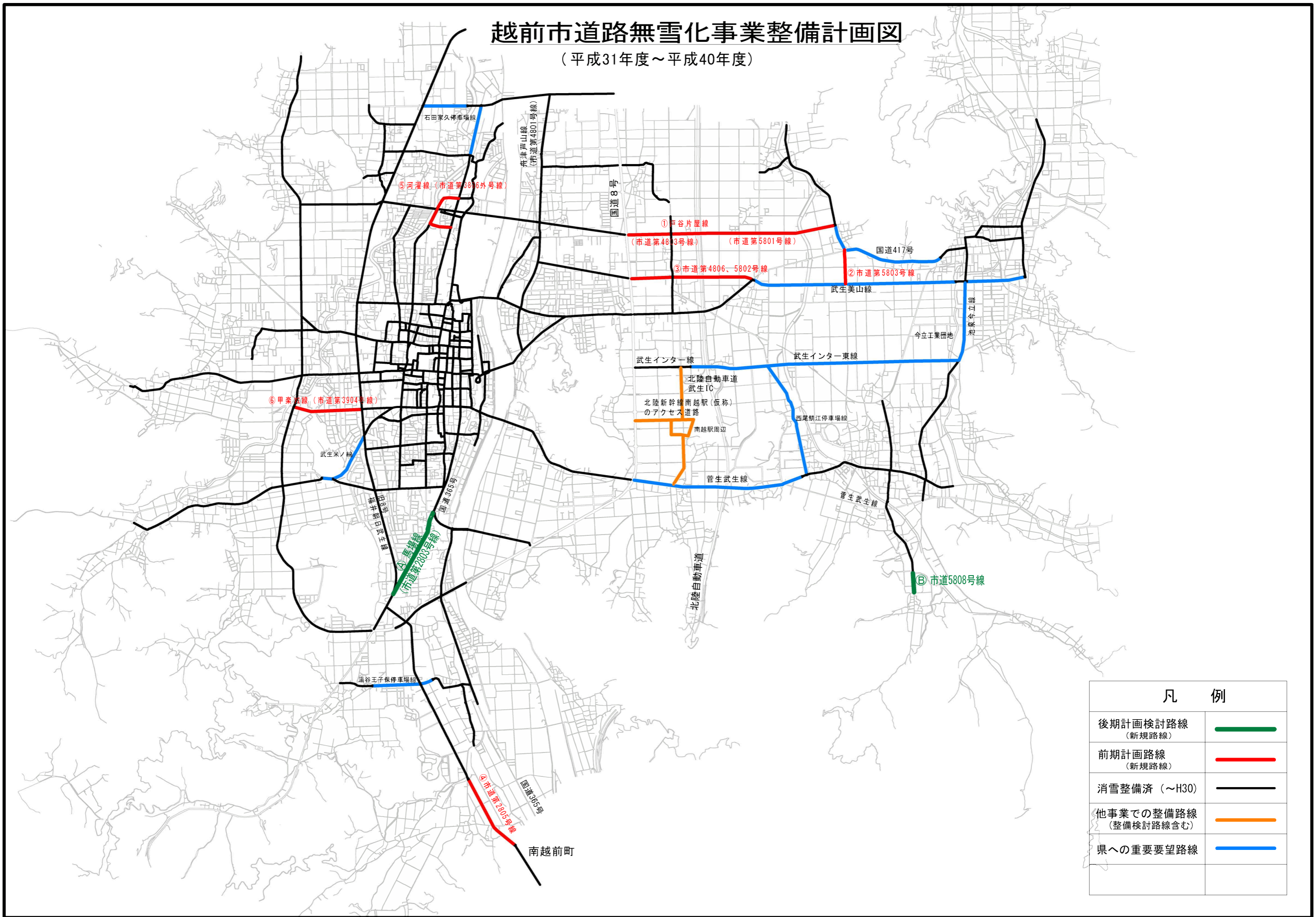
① 戸谷片屋線(市道第4803、5801号線)
(1) 国道8号と国道417号を接続する重要な路線 (2) 公益施設への往来、大規模事業所への従業員の通勤などの車両の降雪時の円滑な通行の確保 (3) 市道第4803号線の一部が市民バス「のろっさ」の運行路線であり、運行車両の降雪時の円滑な通行の確保が必要
②市道第5803号線
(1) 国道417号と武生美山線を接続する重要な路線 (2) 緊急車両の降雪時の円滑な通行の確保(南越消防組合東消防署) (3) 福鉄バスの円滑な通行の確保
③市道第4806、5802号線
(1) 国道8号と武生美山線を接続する重要な路線 (2) 交通量(6,136台/日)が多い。 (3) 武生美山線へ消雪水の供給するため、市道第5802号線の経由が必要
④市道第2805号線
(1) 越前市と南越前町を結ぶ国道365号のバイパス道路として重要な路線 (2) 市町境の南越前町側道東谷国兼線については、消雪施設の整備が完了 (3) 勾配が6%以上あり発進停止が困難
北陸新幹線南越駅(仮称)のアクセス道路
(1) 新幹線の利用のため、南越駅(仮称)までのアクセスを円滑にする。 (2) 南越駅に併設される「道の駅」には国道8号、北陸自動車道武生インターチェンジに近接しているため、丹南地域の拠点である一方、災害時(震災、大雪、台風、大雨など)の避難者の受け入れ先としての防災機能の役割がある。 (3) 南越駅(仮称)と国道8号、武生インター線(北陸自動車道武生インターチェンジ)、菅生武生線との各アクセス道路については、別途道路事業の中で取り組む。

【後期】

A 馬場線(市道第2803号線)
(1) 前計画からの継続路線
B 市道第5808号線
(1) 前計画からの継続路線

越前市道路無雪化事業整備計画図

(平成31年度～平成40年度)



凡 例	
後期計画検討路線 (新規路線)	—
前期計画路線 (新規路線)	—
消雪整備済 (~H30)	—
他事業での整備路線 (整備検討路線含む)	—
県への重要要望路線	—